

## ◆年頭挨拶◆

理事長

山下 静也



「明けましてお目出度うございませす。」

2019年12月に中国武漢から広がった新型コロナウイルス(COVID-19)の恐怖に怯えながら、新年を迎えたと思ったら、COVID-19対応であつた間に時間が過ぎ、我が国では第三波の真ん中で医療崩壊状態を迎えるという散々な一年でした。病原性が強いコロナウイルスとしては重症急性呼吸器症候群(SARS)や中東呼吸器症候群(MERS)を引き起こすウイルスが知られていますが、COVID-19は無症状の時から他人へ感染させるというやっかいなウイルスのため、武漢に始まり、あつた間に欧米やアジアを中心に急速に広まっています。我が国も空港での封じ込めができていらずに、大都市を中心に蔓延しているのが現状です。

当センターも武漢で不可解な肺炎が広がっているというニュースが出た時から、早いうちに日本へも広がる可能性を考えて感染症センターの倭センター長を中心に対応策を練りました。特に、多数の三次救急患者を受け入れる泉州救命救急センターや、二次救急として循環器疾患、脳卒中の患者なども多数受け入れている当センターの初療でも、いつCOVID-19陽性患者が紛れ込んでくるかが分からない状況でしたので、院内感染防止のためPCR、LAMP法、抗原検査、抗体検査等による独自のCOVID-19迅速診断体制を全国に先駆けて整え、これまでに大阪府内の医療施設及び閑空検疫などから数多くの重症患者、中等症患者、軽症患者、COVID-19疑い肺炎患者の受入れを行ってきました。しかし、患者さんの

受診控え、風評被害もあり、診療体制維持のために二次救急を一時停止せざるを得なかったことなどもあって、95%近くもあつた稼働率が著しく低下し、残念ながら収益が悪化しています。幸いに院内感染によるクラスター発生は避けることができている。

医療スタッフ及び事務部門も全員一丸となって頑張ってくれています。ストレスフルな先のない戦いです。少なくとも数年間はCOVID-19の蔓延が収束する可能性は極めて低く、ワクチンの効果も科学的に見極める必要がありそうです。既にCOVID-19ウイルスの遺伝子変異は各地域で起こっており、それにも対応できる方法を開発しないとイタチごっこになります。今後は恒常的に変異を続けるCOVID-19ウイルスと共生していくことを考えざるを得ません。そうすると、常にマスク、手洗い、消毒用品などは必需品で、可能な限り自宅などでのテレワークがルーチンとなり、社会も大きく変化してきていますが、患者さんをケアする病院はテレワークという訳にはいきません。

三密という聞き慣れない言葉が昨年の流行語大賞となりましたが、12月6日には久しぶりに明るいニュースが飛び込んできました。小惑星探査機「はやぶさ2」が地球の重力圏に帰還し、小惑星「リュウグウ」の砂が入っていると思われるカプセルを地球に送り届け、更に新たな小惑星探査の旅途絶を復活させ、小惑星「イトカワ」に着陸してのサンプリングに世界で初めて成功しています。JAXAはイオンエンジンなど国産技術の粋を集めて世界の最先端を走っていますが、病院も同様に考えると、日本人得意のチームワークと粘り強く考える力があれば、新型コロナウイルスの難局も恐らく乗り切れることは可能と思われれます。今年も当センター職員の叡智を絞って新型コロナと共生できるように頑張ります。引き続き当センターへの温かいご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

## ◆年頭挨拶◆

統括看護局長

藤野 正子

(兼) 臨床研修指導者



あけましておめでとうございませす。

昨年は新型コロナウイルスではじまり、新型コロナウイルスでおわりました。幸いにも院内でのクラスター発生を起こすことなく、患者さんの受け入れができましたのも、職員一人一人の心がけの賜物と感謝いたします。新型コロナウイルス対応部署では刻々と変化する中で受け入れの体制づくりをして頂いたり、他の部署においても救急受け入れや応援体制に協力して頂くなど、地域における当院の使命を理解し協力があつたことで、無事に新しい年を迎えることができました。また、地域の皆様には、多大なる応援メッセージと寄付をいただき、職員一同勇気づけられました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

今年に入っても状況は変わらず緊張感は続きますが、感染予防に気をつけ職員一丸となって、この時期を乗り越えたいと思います。

さて、患者様やご家族にも多大なるご迷惑をおかけしていますのが面会制限です。新型コロナウイルスの院内感染のリスクから規制をさせて頂いていますが、面会の重要性は十分

理解はしております。会えないこと

に対する寂しさだけではなく、家族だからこそ与えられる安心感や癒しがあることを考えますと、緩和したいところではありますが、リスクの高い患者さんへの感染を考えると、制限緩和の時期にはまだないように思います。また、隔離を必要とされている患者さんも少かりです。外界との接点が少ないため、病気の不安だけではなく、孤独感や寂しさなど心理状況に大きく影響していると思います。そのことをどう埋めるのか、身近にいる看護師としてご家族とのコミュニケーションをどのような方法で図っていくのか考えていきたいと思

います。  
2020年はナイチンゲール生誕200年でした。ナイチンゲールの「あなた方は進歩し続けない限りは退歩していることになるのです。目的を高く掲げなさい」の言葉を胸に一步でも半歩でも前に進む年

